

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	機能強化型在宅支援病院の病床機能の役割その 2 ～看とりの側面から～
演者名	青木達人
所属	函館稜北病院

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告      2. 症例シリーズ報告      3. コホート研究 4. 症例対照研究    5. 調査研究      6. 介入研究      7. 二次研究 8. 質的研究      9. その他研究	NO.
		5
<p>目的  昨年の演題では、当院に入院した在宅管理患者 330 名の入院病名、退院先等を調査し、在宅支援病院の病床機能を検討した。今回は、2011 年 1 1 月より 2014 年 8 月末までに当院に入院した在宅患者管理患者 5 1 1 名のうち、死亡退院患者より、在宅医療における病院の看とりの側面の役割を考察し、今後の地域の在宅医療に役立てたいと考えた。</p> <p>方法  死亡退院者の入院病名・入院経路・家族構成・要介護度を調査しまとめと考察をおこなった。</p> <p>結果  この期間に死亡した数は 96 名であった。うち在宅での看とりは 36 名であった。残り 60 名は死亡退院であった。病名は、癌が 19 名で残りは、肺炎をはじめとした感染症など非癌の患者 41 名であった。入院経路であるが、在宅からが 33 名、在宅系施設からが 24 名、ショートステイ先からの救急搬送が 3 名あった。世帯では、独居が 3 名、高齢者のみの世帯 16 名、家族同居 17 名、居住系施設 24 名であった。介護度は平均 3. 5 であった。</p> <p>考察  前回の演題考察では、病床の役割として、再び在宅生活を継続する事や、非癌患者さんの看とりという役割が病棟あると認識していたが、今回は死亡退院者の分析を進めていく中で病状や家族の介護力からやむを得ないケースと居住系施設から入院しそのまま最期を迎えるケースが多いことがわかった。病状や家族の介護力が課題の場合は、医療処置ができない、介護者が不在の時間があるが、50%あった。在宅系施設からは、そもそも施設では看とらないため入院継続となったケースが居住系施設からの入院の 80%を超えていた。その中で病床はある意味、地域の中での一つの最期を迎える場所であることが改めて認識できた。在宅療養を支え、最期には地域での看とりをおこなう場としてのどのような役割を果たしどのようなケアを進めていくか検討が必要であると考えた。</p> <p>おわりに  今後も地域の中で看とりの問題を、病床を持つ病院として検討を続けていきたい。</p>		